

中興化成、栃木・宇都宮工場でフッ素製品工場の建設再開

2021.3.22 No.4706

フッ素樹脂加工などを手がける中興化成工業(東京都港区赤坂2-11-7、03-6230-4414)は宇都宮工場(栃木県鹿沼市)で、フッ素樹脂製チューブの生産新棟の建設を2021年2月に再開した。2020年に新型コロナウイルスの影響で計画を凍結していたもの。完成は2021年12月。建屋面積2,000㎡で宇都宮工場の面積は1.5倍となる。

フッ素樹脂は耐熱性、滑り性、非粘着性、耐薬品性、低摩擦性、絶縁性に優れている。このため同社のフッ素樹脂製チューブは、半導体向けのほか医療や自動車関連向けなどで需要が拡大しており、生産能力の増強で対応する。また、同社は宇都宮工場のほかF2松浦工場(長崎県松浦市)でシリコンウエハ洗浄槽の生産設備導入を2020年4月に完了させており、宇都宮工場と合わせた投資額は10億円。


関連企業リンク

[中興化成工業](#)

関連地域

[栃木](#)
[長崎](#)

記事の内容に関する 問い合わせは

重化学工業通信社 編集部
TEL : 03-5207-3332
FAX : 03-5207-3333
E-mailでのお問い合わせ 

※掲載記事の無断転載を禁じます。著作権は(株)重化学工業通信社に帰属します。

Copyright The Heavy & Chemical Industries News Agency, all rights reserved